



■11/19 かわさき発電所3号機「DIY設置」完成報告



去る 11 月 30 日、原発ゼロ市民共同かわさき発電所 3 号機 (12.96kW) が稼働しました。これまで本誌で報告してきた通り、横浜市鶴見区の「うしおだ診療所」屋上にプロと一緒に市民の手作りで 3 号機を完成させました。

私たちは 2 度にわたり施工業者の太陽住建から研修を受け、自分たち用に写真付手順マニュアル (5 頁) をつくり、当日に向けて活動してまいりました。研修中、設置幅用木製ゲージで幅決めをすることを学び、もっと木製のゲージを増やしてメジャーを使わないで組み立てる提案をすると 2 度目の研修には採用されました。また、別な所の手作り発電所の建設でうまくいかなかったことも参考に、協議の上、手順も工夫しました。

2 日間の工程でしたが、1 日目は雨天のため中止、翌日 11 月 19 日 (日) には快晴の下 10 名が参加。作業にあたったメンバーはほぼ研修を受けていたので、もう一度説明を受けましたが、架台取付はスムーズにできました。実際に連続的に架台を設置しないとコツがつかめなかったこともありましたが、作業スピードが上がるのを実感できました。

FIT 価格が急激に低下する中、どのように市民の力で再エネを普及させるか。その一つのカギは DIY による手作り発電所でのコスト削減ではないか。また、作業に加わることで愛着が持てるのではないか。そう思うからこそこの今回の手作り発電所です。

とは言え何割も安くなるというものでもありません。10 年後の防水工事のパネル一時移動に費用がかさむので、発電 20 年でも赤字になるという試算がありました。そこでコスト削減のため DIY を提案したのが始まりです。私たちの技術が進歩していくと、コストダウンの余地はあるでしょう。当日、設置業者の方は 2 人。こちら側は 10 人。少なくとも何人かの人件費はカットされています。昼 1 時間を除いて朝 10 時から 4 時頃まで働きました。もちろん電気工事など素人ではできない工事はプロにお任せしています。2 日目の工程は施工業者のご厚意で、私たち抜きで完成していただきま



した。

「20年間、この発電所とともに元気に生きています。(63)」など、パネルの裏に参加者9名の思
いを描きました。このD I Yの仕組みが全国に広がることを願い、次の4号機
もこのD I Yで行こうと思いました。

理事 高橋 喜宣



■2/18 かわさき発電所3号機「通電式」のご案内

原発ゼロ市民共同かわさき発電所 3号機「通電式」

日時：2018年2月18日(日)
14時～16時半

※12時～13時 うしおだ診療所の屋上
に設置した太陽光発電所を見学します。

場所：汐田総合病院 会議室 150人
南武線【尻手駅】下車、徒歩10分

内容：上映会+講演、通電式特別企画

「日本と再生」ダイジェスト版の上映(37分)

講師：佐藤 ^{やうえもん} 彌右衛門さん

(会津電力㈱代表取締役社長・大和川酒店店代表社員)

前ページでお伝えしたように11月30
日から私たちの3号機が発電を開始しまし
た。

公益財団法人 横浜勤労者福祉協会、うし
おだ診療所のご協力を得て、3号機発電所を
完成させることができました。みなさまに感
謝をこめてお披露目をいたしたく、左記のと
おり「通電式」を開催いたします。

「日本と再生」を当会で7月11日に上映
したときには、河合弘之監督を講師としてお
迎えして元気をいただきました。今回はその
ダイジェスト版の上映と、「原自連」の佐藤彌
右衛門さんから福島のお話をお聞きいたし
ます。ぜひ大勢の方のご参加をお待ち申し上
げます。

理事 加藤 伸子



■12/10「浜岡原発の危険性」@厚木報告

浜岡原発の学習会は当会主催で何度も積みあげてきましたが、外部
の市民団体にお招きいただくのは初めてのことでした。

12月10日(日)、なくそう原発あつぎの会主催の第7回勉強会が
アミューあつぎ9階の映画館にて開催されました。当会の田中哲男副
理事長が講師となり、当会の活動を紹介した後、浜岡原発がいかに危
険かということをお伝えし、真夏に浜岡原発で事故が起きたと想定し
て厚木市の放射能汚染の状況や避難の困難さをシミュレーションしま
した。みなさんに実感していただきたくて30分ほどのワークショップ
にお付き合い願ったところ、これがとても好評で、アンケートには
44人の方から感想をいただきました。

終了後、南相馬から避難された方、他団体の方々ともお話がはず
み、交流の機会を得たことに感謝するとともに、今後も広げていき
たいと思いました。

理事 加藤 伸子

なくそう原発あつぎの会 第7回勉強会

浜岡原発の危険性

事故が起きたら津波は!? どうなる?!

講師：NPO法人 原発ゼロ市民共同
かわさき発電所
副理事長 田中哲男さん

世界一危険といわれる浜岡原発
2011年5月から運転停止しているが、
3号機・4号機は再稼働に向け審査中
再稼働を許している?!

浜岡原発でのシビアアクシデント!
そのとき私たちは避難できるのか?
ワークショップ で考えてみよう

「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」のご紹介

月日：2017年12月10日(日)
時間：(AM 9:30開場) 10:00 ~12:00
場所：アミューあつぎ 9F ホール112
(定員100名・先着順・申込み予約可)

参加費：大人500円、学生・子ども 無料

お問い合わせ・申込み予約：なくそう原発あつぎの会 連絡
TEL FAX 046-229-3656
メールアドレス nonukesatogai@gmail.com

厚木市厚木12-13 TEL 046-208-0241

なくそう原発あつぎの会では、定期的に勉強会や講演会などを主催し、大事な生命を脅かす原
発というエネルギーから脱離し、未来の子供たちが安心して暮らせる環境を築いてあげたいと
いう気持ちで、市民活動をしています。



■「条例制定プロジェクト」本格始動！

川崎地域エネルギー市民協議会（以下、「協議会」という）の川崎市再生可能エネルギー推進条例制定プロジェクト（以下、「条例制定プロジェクト」という）が、2017年12月から本格始動いたしました。

この条例制定プロジェクトは、川崎市を省エネルギーかつ再生可能エネルギーが積極的に導入される街にするために、市民が条例案を提案し、その条例の制定の実現を目指すものです。

もともと、原発ゼロ市民共同かわさき発電所の政策検討チームが、再エネ条例について3年ほど前から取り組んできました。他の自治体の再エネ条例の学習をしたり、再エネ条例に詳しい専門家にお話をうかがったりしながら、条例の内容の検討を重ねてきました。その後、再エネ条例の実現のためには、省エネや再エネの積極的な導入を望むオール川崎の市民の声が必要であると考えられたことから、協議会が発足した2016年2月に、協議会のプロジェクトとして取り組む方針としました。



「川崎地域エネルギー市民協議会」総会 参加メンバー

去る2017年10月14日、条例制定プロジェクトは、厳正な審査を経て、公益財団法人かながわ生き生き市民基金（以下、「生き生き市民基金」という）が実施する事業指定助成プログラム、「エラベル」の登録事業となりました。これにより、生き生き市民基金の力をお借りしながら、条例制定プロジェクトの実施のための寄付を募る活動を2017年12月1日から開始し、2018年3月20日まで継続されます。寄付の獲得目標金額は60万円です。

集まった寄付金は、条例制定の実現に向けた署名活動（2018年4月から1年間かけて3万筆を目標とする）の印刷費や学習会、広報活動などに活用させていただきます。

福島原子力発電所の過酷事故は、原子力災害が長期間にわたり取り返しのつかない影響を及ぼすことを実感させました。災害時の安全性や環境配慮の観点から、大規模集中型から小規模分散型の発電設備へ、化石燃料や原発に頼らない再生可能エネルギーへと、発電構造を大きく転換させなければなりません。

私たちは、条例制定プロジェクトを成功させることにより、政令指定都市における省エネ・再エネ推進条例の先駆事例にし、環境や健康にやさしい持続可能なエネルギーを使う街にしたいと考えています。このプロジェクトについては、専用のホームページでも情報発信等を行っています。

<https://kawasakisaiene.jimdo.com/>

条例制定プロジェクトの実施のために、ぜひ多くの皆様のご協力を賜れますと幸いです。よろしくお願い申し上げます。

再エネ条例制定プロジェクトチームリーダー
理事・政策検討チーム 岩坂 康佑（弁護士）



福島の子どもたちに心寄せて～森とせせらぎ祭りでアピール～

「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会 代表 高橋 真知子

11月12日（日）、その日は晴天でした。第11回森とせせらぎ祭りの開始がトランペットのファンファーレで告げられます。と同時に雲間からお日様が顔を出すと体が暖まり、心も満ちてきます。

お日様の偉大な力に感謝し、映し出される木々の紅葉に目を細めていました。そして、大勢の方々とのふれあいを楽しみながら、支援のアピールをさせていただきました。

中原区、高津区を中心として江川「森とせせらぎ祭り」は、「子ども未来・地域ふれあい」をテーマに子どもたちの故郷づくりを応援しています。どの子にとっても、空気も風も緑も水も、そして人々が集う故郷はかけがえのない宝です。

しかし、福島の子どもたちはあの原発事故で、それを失ったのです。放射能被害を恐れ、故郷を追われ、不安を抱えながら長い旅が始まりました。7年が経ち、落ち着きを取り戻した反面、ホットスポットの存在

や積み上げられた汚染土など日常の心配は消えません。「原発事故とは関係ない」としながらも、福島県の子どもの甲状腺がん・疑いは194人（2017.10現在）にも上っています。

私たちは、2011年の原発事故からすぐに川崎市民の会を立ち上げ、市民からの募金をもとに、外遊びができない福島の子どもたちを川崎に招待し、心と体のリフレッシュプログラムを行っています。夢パークでのどろんこ遊び、青少年の家でのプール、読み聞かせや音楽など、ボランティアが世話役を務めています。子どもたちの笑顔を楽しみに・・・

【連絡先】 Fax. 044-742-5111

Mail: fukushima.children311@gmail.com



「おひさまフェス×星空上映会 2015」出店風景
お絵かきを楽しんでいる子どもたち

【編集後記】

12月13日、四国電力伊方原発3号機の運転差し止めを求めて広島市民らが申し立てた仮処分の即時抗告審で、広島高裁が運転を差し止める決定をした。福島原発事故後、原発の再稼働や運転を禁じる高裁段階の司法判断は初めて。阿蘇噴火、火砕流の危険があり立地に適さないとした。（12/14 東京新聞記事より抜粋）

脱原発に向けて活動している私たちにとって、とても嬉しいニュースで今後の弾みがつきます。テレビに映った河合弘之弁護士の喜びの笑顔が印象的でした。

（加藤伸子）

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

でん太通信は毎月15日に発行しています。

